

三豊総合病院だより

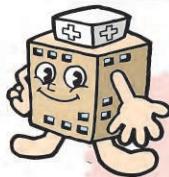
Mitoyo General Hospital



発行●三豊総合病院

発行人●白川 和豊

2011
47



10周年の 節目を迎えて



2000年4月に当院に県内で初めての緩和ケア病棟が誕生し10年が過ぎました。

3月25日に10周年の節目として「三豊総合病院緩和ケア病棟開設10周年記念講演会」を開催しました。講師に金城学院大学学長で淀川キリスト教病院名誉ホスピス長の柏木哲夫先生を招いて「わが国の緩和ケア～これまでとこれから～」をテーマにご講演いただきました。柏木先生は1984年、淀川キリスト教病院（大阪）に日本で2番目のホスピス病棟を開設した方で、その後も日本の緩和ケアを牽引してこられたカリスマ医師です。10年前に当院の緩和ケア病棟開設時にも観音寺でご講演いただいているいます。

講演では、日本の緩和ケア（ホスピスケア）は歴史が浅いもののそれでも時代とともに変遷してきたこと、しかし時代が変化しても緩和ケアの基本原則は変わらないこと、基本原則とはQOLの重視、コミュニケーションの重視、自立と選択の重視、介護者の重視、人間としての理解を重視の5原則であることを説明されました。さらに緩和ケア領域に限らず医療者に必要なのは医療技術だけでなく“人間力”

～緩和ケア病棟開設10周年 記念講演会を終えて～

であることも強調されました。講演会場は当院3階講堂でした。会場に入りきらないほど聴衆が集まり、柏木先生独特のユーモアたっぷりの語り口に引き込まれ



講演会は大いに盛り上がりました。講演会後には“もっと聞きたかった” “パワーをもらった”等の声が多く聞かれました。

当院緩和ケア病棟は近隣地域のがん患者様の療養場所として利用され、緩和ケアという良質で新しい医療を提供できたと自負しています。昨年までに緩和ケア病棟を利用した患者様はのべ1,000人を超えるうち観音寺市と三豊市の方で72%、四国中央市まで含めると86%が地元の患者様に利用されました。開設10周年の節目をこえて、今後も利用者皆様の建設的意見に耳を傾け、スタッフ個々が“人間力”に磨きをかけ、皆で協力し合って緩和ケア病棟の質向上に取り組んでゆきたいと考えています。



東北関東大震災におけるDMATの活動報告 DMAT隊 石津 寛文

みなさんも今回の震災報道で、DMAT（ディーマット）という言葉を一度は耳にされたことがあるかもしれません。DMATは、Disaster（災害）、Medical（医療）、Assistance（支援）、Team（チーム）の頭文字を取ったもので、災害医療支援チームのことです。

DMATは、大地震などの大規模災害や航空機・列車事故といった多数の傷病者が発生する災害時に、現場に迅速に駆けつけ、緊急治療（概ね48時間以内）を行なうためのチームで、主に当院のような災害拠点病院に設置されています。

先日3月11日の東北関東大震災に際して、当院DMATは被災地に向け出動しました。DMATは、医師、看護師、調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）により構成されます。当院でも医師1名、看護師2名、調整員2名の計5名が、2台の車に分乗し被災地である宮城県仙台市へ向かいました。道路事情の悪い中、約1,300kmの道のりを19時間掛けて走りましたが、途中、刻々と明らかになる被災地の悲惨な状況をラジオで耳にし、また、大きな余震に出くわすなど、これまで感じしたことのない緊張感の中、車を運転したことを今でも思い出します。

目的地の仙台医療センターに着いたのは、発災後1日余り経過した12日午後5時でした。仙台医療センターは地震による建物被害は軽度でしたが、仙台市内の広範なライフラインの損傷により、電気・水が使えず、集中治療室や一部の病棟がかろうじて自家発電で運営されている状況でした。そこには既に各県の先発隊、約80隊が到着しており、交代で支援活動をおこなっていました。我々も翌朝からその活動に就いたのですが、トリアージエリア（治療の優先順位を一目で分かるように患者を色分する場所）、重症患者を治療する赤エリア、中等症患者を治療する黄色エリア、軽傷患者を治療する緑エリア、広域搬送

患者をケア（被災地では医療設備が整っていないため自衛隊と連携し、ヘリコプターで他県の病院へ重症患者を搬送）するチームに各DMAT



が分かれて活動しました。1日に100人弱の患者が救急車で運ばれてきましたが、ほとんどは野外の寒い環境で長時間救出を待つことによる低体温症がありました。重症症例（いわゆる赤タグ）は骨盤骨折、重症頭部外傷、頸椎損傷や、車中で眠ったことによる肺血栓塞栓症などで、11日および12日はともに13名であったとのことです。また、中等症を含めた入院を要する患者数は、1日30人から40人程度がありました。全体としてみると、圧倒的に軽症患者が多かった状況です。そして我々は13日昼前にその日の任務を終えたのですが、このセンターには、既に多くのDMATが参集しておりましたので、我々は医療支援が不十分である他の現場に行きたいと考えました。しかし対策本部の規制が厳しく、また食料やガソリンが不足している状況から、迷惑はかけられないと考え、13日午後に仙台より撤収致しました。DMATとしての一定の役割は果たせたと思いますが、もっと他にも医療支援を必要とするところがあったのではないかと思うと心残りでした。

今回の活動に参加して、多くの人命を奪い、傷病者を発生させる大災害に対して急性期医療を担うDMATの役割が非常に重要なものであることを痛感しました。今後起り得るこのような災害に備え、我々DMATはさらにスキルアップを図ろうと決意しています。



ご協力いただいた皆様へ

平成23年5月6日

東日本大震災義援金に対する ご協力のお礼について

三豊総合病院では、平成23年3月17日～平成23年4月28日までの期間、東日本大震災義援金を募集いたしましたところ、皆様の温かいご支援とご協力をいただき、**244,438円**にものぼる募金を頂戴いたしました。

被災者の方の支援に微力ながらお手伝いできることに喜びを感じております。ご協力をいただきました皆様方、本当にありがとうございました。

平成23年4月28日付で、当院も加入している国民健康保険直営病院の団体『国民健康保険診療施設協議会』に振込をいたしましたことをご報告申し上げます。

病院長

「第1回みとよ糖尿病療養指導セミナー」 代謝科 医長 米井 泰治

1年半前に立ちあがった西讃糖尿病対策推進会議（三豊・観音寺市医師会、三豊市、観音寺市、西讃保健福祉事務所、三豊総合病院で地域の糖尿病対策を考える会です）が、地域の糖尿病の療養指導士の育成事業を開始しました。その最初のセミナーが行われました。

最初に医師会長で西讃糖尿病対策推進会議会長である池田博行先生にお言葉をいただき、本セミナー趣旨今後についての説明をさせていただきました。



清水一紀先生



特別公演は愛媛県で地域糖尿病療養指導士を10年間引っ張つてこられた清水一紀先生に『愛媛県地域糖尿病療養指導士の現状と未来』についてのお話ををしていただきました。愛媛県立今治病院副院長先生からこの4月からは循環器病センター榎原病院に福田哲也先生と共に糖尿病センターを立ち上げに行かれました。糖尿病療養指導士の活躍だけでなく食後血糖測定の大切さや診療時の脂肪変性への注意など、療養指導だけでなく医師として知っておけば役に立つ話題をお話しして下さり、約1時間半の時間はあっという間に過ぎました。参加者は88名の方で、院外からも50名以上の参加となりました。

これから、年に3回の講演会と年1回の勉強会を行う予定になっています。皆さまのご支援を宜しくお願いします。

みとよ糖尿病療養指導士とは？

日本には日本糖尿病療養指導士認定制度がありますが、資格の条件が厳しくなかなかとくいのが現状です。そこで各地域に地域糖尿病療養指導士制度が出来ています。

今回、西讃糖尿病対策推進会議（三豊・観音寺市医師会、三豊市、観音寺市、西讃保健福祉事務所、三豊総合病院）でみとよ糖尿病療養指導士認定委員会を設置しました。目的は、「糖尿病患者さんの健康と福祉の向上および地域における糖尿病発症予防のため、糖尿病療養指導についての豊かな知識と経験を持ち、我が国の医療法の下で療養指導チームの一員として質の保証された療養指導を行うことのできるスタッフの育成を目的とする。」となっています。地域での今後の取り組みにご期待ください。

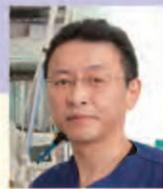


三豊観音寺市医師会症例検討会より

眼瞼下垂症の治療

三豊総合病院 形成外科部長

太田 茂男



～主に老人性眼瞼下垂症の手術について～

最近、テレビで加齢による眼瞼下垂は視野の狭小化となり、それを補おうとする代償性の前頭筋収縮が頭痛、肩こり、眼精疲労などの不定愁訴の原因となっていると取り上げられ、その放送後しばらくは、眼瞼下垂、頭痛、肩こりを主訴に当科を受診される患者様が多くいます。

眼瞼下垂症とは正面視で角膜が2mm以上隠れ、視野の狭窄をきたしている病的な状態です（正常でも角膜は2mm隠れている）。

眼瞼下垂には先天性眼瞼下垂と後天性眼瞼下垂があります。後天性眼瞼下垂には眼瞼拳筋腱膜性眼瞼下垂（老人性眼瞼下垂症）、神経性眼瞼下垂（外傷、脳腫瘍等）、筋性眼瞼下垂、内分泌性下垂、偽性眼瞼下垂（眼瞼皮膚弛緩症＝老人性眼瞼下垂症）などがあります。

治療は主に手術で、手術法には眼瞼拳筋前転法、筋膜移植法、その他のものがあります。また、それらを組み合わせた方法（余剰皮膚切除＋拳筋前転、眉下切開による余剰皮膚切除＋拳筋前転など）があります。

眼瞼の皮膚の厚みは睫毛に近いところは薄く、眼瞼上部は厚いので、余剰皮膚を多く切除しなければならない場合は、皮膚の厚みが違うため重瞼線のところよりも眉下切開の方がだぶつきがなく、若いころの顔貌に戻せます。今後、下垂症手術は眉下切開が主流になると考えています。

あでこに皺をよせて眉毛を吊り上げて目を開いている方は、眼瞼下垂があります。手術は方法にもありますが、局所麻酔で両眼で1時間弱です。術後は目が腫れ、内出血が見られることがあります、外来通院で手術可能です。目の腫れが気になるようでしたら4～5日の入院で行うことができます。傷痕は半年すればほとんどわからなくなります。

もしかしたら私、眼瞼下垂があるのではと思われる方は、一度形成外科を受診してみて下さい。

外来は月、水、金は13:30～16:00、火、木は9:00～11:00で診察を行っています。

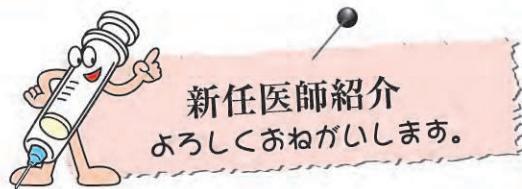
三豊観音寺市医師会症例検討会より

前立腺肥大症の 新しい手術療法

三豊総合病院 泌尿器科 医長
小泉文人

ホルミウムヤグレーザーによる前立腺核出術 (HoLEP) について

排尿管理で最も大切なことは、尿がきちんと身体の外に出て行くということです。尿が腎臓で作られているにもかかわらず、体外へ出せないとそのうち腎機能が悪化し腎不全に陥ります。中高年の男性では若いときほど尿が飛ばなくなっていますが、そのなかには前立腺の肥大によるものが多数含まれています。肥大した前立腺により尿道が圧迫され尿の勢いが悪くなるわけですが、それに伴って残尿量が増加し（排尿後すっきりしない）、すぐ膀胱が満タンになって頻繁に尿に行くことになります。残尿量が増加すると膀胱炎になりやすい・膀胱機能の低下・ひいては腎機能の低下をきたします。治療としては、尿道への前立腺の圧迫を取り除いて尿を通りやすくすることが必要です。薬物療法もありますが、大きな前立腺では限界があります。前立腺が大きいとちょっとしたこと（風邪薬を飲んだり、飲酒したり、急に寒くなったりなど）で尿道への前立腺の圧迫が増加し、尿が出なくなって救急を受診される患者さんもいらっしゃいます。そこで手術という話になります。一般的には前立腺肥大症の手術は尿道から内視鏡を入れて、肥大した前立腺を内視鏡に付いた電気メスで削り、通り道を広げる手術（内視鏡的前立腺切除術、TURPと言います）が主流ですが、手技の特性上削り残しもあり、将来再手術が必要になる人もいます。また巨大な前立腺に対しては内視鏡的前立腺切除術では出血量も多くなり開腹手術が必要となる場合もありました。それらの欠点を改善するために近年前立腺肥大に対して電気メスではなく止血効果の強い医療用レーザー（ホルニウムヤグレーザー）を用いて肥大した部分をくりぬく手術が行われるようになってきています。削り残りも少なく、出血量も少ない・入院期間が短くなるなどの利点がありますが、機械が高額ですので行える施設はごく少数です。三豊総合病院では最新の治療を行うべく、医療用レーザーを昨年末購入致しました。従来の前立腺を削る手術の方が適した症例（膀胱容量が小さい人など）には従来どおりの手術をお勧めすることになりますが、新しいホルニウムヤグレーザーを用いた前立腺手術では従来なら開腹手術が必要な大きな前立腺でも腹部を切開せず、尿道から内視鏡的に手術をすることが可能です。ただ、新しい手術ですので当科では安全かつ確実に行うためにエキスパートによる講習、指導を受けながら徐々に臨床に導入しています。HoLEP手術に関する質問等ございましたら、当科外来担当医に遠慮なくご相談頂ければと思います。

**内科****神野 秀基** (じんの ひでき)

私は自治医科大学を卒業した後、この3月まで小豆島を中心に僻地医療に従事しておりました。common diseaseを中心に内科全般を見ておりましたが、消化器を勉強したいと思い今回の転勤となりました。最終的には何でも見れる消化器内科医になれればと思っております。よろしくお願ひいたします。

**泌尿器科****上松 克利** (うえまつ かつとし)

4月1日付で泌尿器科に赴任した泌尿器科の上松です。主な専門分野は排尿障害関連（前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱、尿失禁）です。また手術に関しては一般的な開腹手術に加え、より低侵襲な内視鏡手術にも積極的に取り組んでいます。地域の先生方と連携し、より良い医療を提供したいと思っております。よろしくお願ひいたします。

**内科****遠藤日登美** (えんどう ひとみ)

はじめまして。現在、三姉妹の子育て中ですが、縁あって三豊総合病院で勤務させて頂く事となりました。自治医大卒業のため、診療所勤務が続きましたが、そこで得られた貴重な経験を生かして、今後の仕事にも役立て、住民の皆様の為に頑張っていきたいと思います。

**皮膚科****中山 由美** (なかやま ゆみ)

昨年度まで岡山県北部の病院に勤務していました。不慣れな所もあるとは思いますがよろしくお願ひ致します。

**内科****山田 大介** (やまだ だいすけ)

この度三豊総合病院内科でお世話になります、山田大介です。若輩者ではございますが、一生懸命頑張りますので、何卒よろしく御願い申し上げます。

**内科****安齋 泰子** (あんざい たいこ)

はじめまして、内科後期臨床研修医の安齋です。出身は東京で、早稲田大学修士課程修了後、岡山大学へ編入し、卒後は岡山県

北にある津山中央病院で初期研修を経て、こちらに赴任致しました。現在は幅広く内科を診させて頂いております。院内では忙しくしておりますが、この土地の人々ののんびりとした雰囲気に癒されている毎日です。皆様、お気軽にお声をお掛けいただけましたら幸いです。どうぞ宜しくお願ひいたします。

**整形外科****土岐 傑一** (とき しゅんいち)

東京生まれ、北海道（釧路恵庭）育ち、日本大学医学部卒業（平成20年）、去年より徳島大学整形外科入局の土岐と申します。サラリーマンの父親の転勤に加え「人との縁」を大切に歩んできたところ、このような経緯で三豊総合病院へ異動となりました。讃岐うどんは好きですが、右も左もわからない香川県です。拙い私ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

**内科****田所 明** (たどころ あきら)

4月より三豊総合病院で勤務させて頂くことになりました。これまで大学病院を中心に行なっていましたが、今回初めて地域の病院に勤めることとなりました。これから少しでも地域や患者様の力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

**内科****増田 拓郎** (ますだ たくろう)

4月1日から三豊総合病院で後期研修医として勤務させていただくこととなりました。平成21年岡山大学卒業後、愛媛の住友別子病院で初期研修を行い、今年から医師3年目となります。専門は循環器内科ですが、専門分野に偏らず幅広く診療ができる医師を目指しています。まだまだ未熟者ではありますが、たくさんの患者さんに貢献していくよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

**臨床研修****林 千晶** (はやし ちあき)

平成22年香川大学卒業、研修医2年目の林千晶です。学生の頃にお産を見て感動し、産婦人科専攻を決めました。平成24年2月末まで産婦人科にて研修予定です。研修医らしく患者様にとって身近な存在でいられるよう、丁寧な診察と細かな気配りができるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。

**臨床研修****佐野 俊和** (さの としかず)

はじめまして。5月から三豊総合病院で働く事となりました、初期臨床研修医2年目の佐野俊和です。去年までは岡山大学病院で研修を行っていました。出身大学は香川大学なので、環境面でも懐かしい雰囲気を感じています。大学の時から「讃岐うどん」が大好きなので、おいしい店を知っていたら是非教えてください。笑顔を絶やさず頑張りますのでこれからよろしくお願ひします。

**臨床研修****田中 真** (たなか しん)

研修医2年目の田中真と申します。平成22年に岡山大学医学部を卒業し、岡山大学病院にて1年間の研修を終え、この春から三豊総合病院で勤務させていただくことになりました。出身は大阪ですが、うどんは大好きです。趣味は旅と釣りです。うどんがおいしく、海に近いこの恵まれた地で、患者様と触れ合い、日々汗をかきながら精進いたします。分からないことも多く、皆様には多々ご迷惑をおかけすることと思います。少しでもお役にたてるよう精一杯頑張ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

**臨床研修****高田 忠幸** (たかた ただゆき)

香川大学を卒業した後、三豊総合病院で初期臨床研修を受けることになりました。私は生まれも育ちも観音寺で、いつかここで働きたいと思っていました。現実となった今、地元に恩返しをするどころか、日々勉強の毎日で今でも観音寺の人々や環境に育てられています。地元出身という名に恥じない医師になりたいです。

**臨床研修****寺澤 裕之** (てらさわ ひろゆき)

大学ではテニスをしていました。自転車で遠出したり、ゴルフもたまにしたりします。研修中も太らないように、時間に余裕があれば続けていきたいと思います。あまり器用な性格ではありませんが、仕事は真面目に、素直に頑張るのでよろしくお願ひします。

**臨床研修****竹本 玲加** (たけもと れいか)

この春岡山大学を卒業し、三豊総合病院にやってきました。地元、愛媛県今治市で元気に闘病をしている父母を見ながら、人間の生きる力の強さに感嘆の日々です。私も早く一人前になって、皆様の安心を少しでも増やせるように、精一杯

頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

**臨床研修****木口 賀之** (きぐち よしゆき)

これから三豊総合病院で研修させて頂きます木口賀之です。出身は岡山県の倉敷市です。去年までは岡山大学の学生でした。まだ何も分からぬ状態ですが、この病院でしっかりと学び、より良い医師になれるように頑張りたいと思います。力不足の身ではありますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

**臨床研修****河村 浩平** (かわむら こうへい)

岡山大学を今年卒業し、4月より初期研修医として働かせて頂く事になりました。出身は愛媛県松山市で大学時代はバスケットボール部に所属していました。研修を通して医師として必要な知識と技術を積極的に習得し、地域の医療に少しでも貢献できるように努力して参る所存です。ご迷惑をおかけすることもあると思うのですが、御指導御鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

**臨床研修****松岡 敬典** (まつおか ひろふみ)

4月から初期研修を始めさせていただく松岡敬典と申します。岡山で生まれ育ちましたが、祖父母が香川県西部に住んでいたこともあり縁を感じております。これから2年間の研修を積むことで、少しでも地域の方々に役立てる医師になりたいと思います。大学を卒業したばかりで今はまだ何もできない状態ですが、地道に頑張ろうと思います。

**歯科口腔外科****谷本 佳弘** (たにもと よしひろ)

今年から歯科口腔外科で研修をさせてもらいます谷本佳弘です。出身は広島県三原市、大学は大阪歯科大学です。香川県で暮らすのは始めてです。技術だけでなく患者さんとよく話をし、患者さんの気持ちになれるように頑張りたいと思います。



妊産褥婦さんたちのための骨盤ケア

産婦人科病棟

骨盤ケアは、本がベストセラーとなつたのもあり、一般的にも知られてきました。妊産褥婦さんたちの中にも、骨盤ケアに興味を持ち、トコちゃんベルトを使用する人が多くなっています。トコちゃんベルトを使用することで、骨盤を固定し、内臓を持ち上げ、ゆがみを整えたり腰痛を緩和したりする作用があります。そんな中、当院でも平成22年から骨盤ケアの取り組みを始めました。その中で助産師2人が、トコちゃんベルト着用のアドバイザーの資格を取りました。妊産褥婦さんでなくても骨盤ケアに興味がある人や、トコちゃんベルトや骨盤ケアに疑問や不安に思っている方も多いのでは？骨盤ケアやトコちゃんベルトについて聞きたい事があれば、ぜひ産婦人科を受診し話を聞きに来て下さい。売店でも売っています。使用時は服の下に着けます（＾＾）



行事食

日々暖かくなり、色とりどりの花がさきほてる季節になりました。

当院でも3月にはお雛膳、4月にはお花見弁当の献立として、季節感を味わっていただきました。

お雛 行事食

ちらし寿司
魚のじょうや蒸し
菜種和え
清汁
ひなあられ



お花見弁当

魚の照り焼き
京風たまご焼き
ほうれん草和え物
りんごグラタン
炊き合せ
「大根・にんじん・
南京・絹さや・
手鞠麩
柚子たくあん
桜もち
いちご



魚のじょうや蒸し（4人分）



[白身魚] 4切	[だし醤油] 20cc
[長芋] 120g	[みりん] 12cc
[卵白] 40g	[塩] 4g
[酒] 20cc	[片栗粉] 4g
	[でんぶ] 12g
	[絹さや] 8枚

- ① 卵白は泡立てて、すりおろした長芋と混ぜ合わす。
- ② 白身魚は酒をふりかけて、①をかけのせ蒸す。
- ③ だし汁にだし醤油・みりん・塩で味をつけ、水とき片栗でとろみをつける。
- ④ 蒸せられた魚はお皿にのせ、あんをかけ、絹さや・でんぶなどもりつける。